

# 農作物技術情報 第1号 畑作物

発行日 令和8年3月19日  
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部  
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当(電話 0197-68-4435)

携帯電話用  
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます  
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

## ◆ 小麦

- ・ 3カ月予報（2月24日気象庁発表）によると、向こう3カ月（3～5月）の気温は高い見込みです。
- ・ 排水対策は今後の適期作業にも大きく影響します。ほ場内の明きょや排水溝を補修し、速やかに排水できるよう努めましょう。
- ・ 倒伏により、赤かび病の発生が増加する恐れがあるため、倒伏を助長する過剰な追肥は避けましょう。
- ・ 除草剤の散布は適期を逃さず早めに行いましょう。
- ・ 麦踏みは、ほ場が乾いていることを確認して茎立ち前までに行いましょう。

## 小麦

### 1 生育状況

は種時期に降雨が多く、は種作業の遅れや湿害が生じたほ場が見られました。そのようなほ場では、越冬前に十分な生育量が確保できず、分けつが少ないまま越冬していることが考えられます。

### 2 排水対策

小麦は生育後半まで湿害を被る作物です。できるだけ早くほ場を乾かし、今後の作業を容易にするためにも、排水溝の崩れやゴミの詰まりを点検し、速やかに排水できるよう補修します。

例年、隣接する水田からの流入水により、生育の悪いほ場が散見されますので、畦畔を補修するとともに、茎立ち前を目安に、必要に応じてほ場内排水溝を設置します。



写真1 水口付近の滞水が目立つほ場

### 3 麦踏み

生育が旺盛な場合は、鎮圧ローラーやタイヤなどを用いて麦踏みを行います。麦踏みは、**起生期頃**から**茎立ち前**の時期に、1回以上行うことで倒伏が軽減されます。土壤水分が極端に高い条件や、越冬直後、茎立ち期以降の麦踏みは低収となる恐れがあるため避けます。

**茎立ち期**：節間伸長により茎が起立し始め、主稈長が2cmになった時期。平年では、概ね4月中旬に茎立ち期に達します。



写真2 茎立ち期の判断指標



写真3 茎立ち期の草姿

#### 4 融雪期追肥

品種特性や生育状況で追肥量が異なり、過剰な追肥は倒伏を助長します。**倒伏により、赤かび病の発生が増加するおそれがあります**ので、注意が必要です。

融雪期追肥は、生育量を確認し、下記の表を参考に行います。

縞萎縮病が見られる場合や白鳥による食害を受けた場合にも、融雪期追肥が有効です。

表1 生育量に基づく融雪期追肥の目安(ナンブコムギ・ゆきちから・ナンブキラリ、追肥量は窒素成分)

品種名	診断内容	融雪期追肥の対応
ナンブコムギ	越冬後株数 120 株/m <sup>2</sup> (茎数 1,000 本/m <sup>2</sup> 以上)	追肥しない
	越冬後株数 75~120 株/m <sup>2</sup> (茎数 400~1,000 本/m <sup>2</sup> 程度)	2kg/10a 追肥
ゆきちから ※	茎数 1,900 本/m <sup>2</sup> 以上	追肥しない
	茎数 1,400~1,900 本/m <sup>2</sup>	2kg/10a 追肥
	茎数 1,400 本/m <sup>2</sup> 未満	4kg/10a 追肥
	水田転換畑 1~2 年目で堆肥を 施用しない場合	4~6kg/10a 追肥
ナンブキラリ	越冬後茎数 900~1,200 本/m <sup>2</sup>	4kg/10a 追肥

※県中南部の「ゆきちから」において、窒素成分で4kg/10aを追肥する場合、融雪期追肥とするよりも茎立期追肥とした方が収量が増加します。なお、茎立期追肥とした場合の玄麦タンパク質含有率、容積重、検査等級、倒伏程度は融雪期追肥とした場合と同等です。

表2 融雪期追肥の目安(銀河のちから、追肥量は窒素成分)

坪刈	収量水準 (kg/10a)	越冬後茎数 (本/m <sup>2</sup> )		
	全刈 (目安)	300 以下	300 ~ 600	600 以上
400	280~320	4kg/10a 追肥	2kg/10a 追肥	2kg/10a 追肥
500	350~400	4kg/10a 追肥	4kg/10a 追肥	2kg/10a 追肥
600	420~480	6kg/10a 追肥	6kg/10a 追肥	4kg/10a 追肥

注) 全刈収量は坪刈収量の7~8割として推定

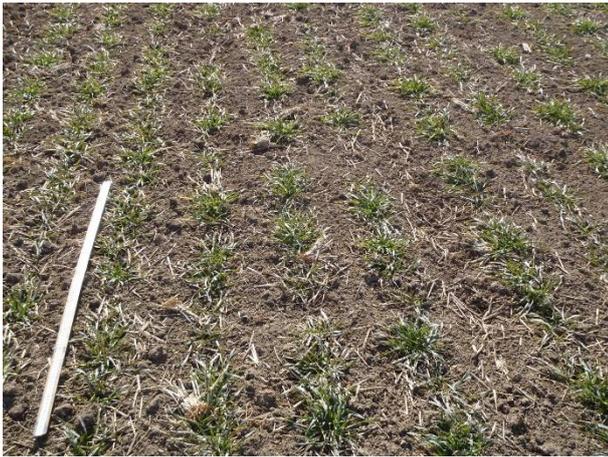


写真4 銀河のちから 茎数 560 本/m<sup>2</sup>



写真5 ゆきちから 茎数 1,100 本/m<sup>2</sup>



## 5 除草

ほ場をよく観察し、雑草が生えそろうて小さいうちに茎葉処理除草剤を散布します。

特に連作ほ場では、雑草害が大きくなります。雑草の種類、発生状況をあらかじめ把握しておく、効率良く防除できます。

## 6 ムギ類萎縮病、コムギ縞萎縮病について

どちらの病気も土壌伝染性のウイルスが原因です。名前のおり株が萎縮し、黄緑色のかすり状の斑点・モザイク症状を示します。特にナンブコムギでは被害が大きくなります。萎縮病の症状が見られた場合は、追肥で被害を軽減します。



写真6 コムギ縞萎縮病の被害（不鮮明なモザイク症状）

## 7 肥料コスト低減に向けて

令和4年に急騰した肥料価格はその後低下傾向にありますが、依然として高止まりが続いています。このため、土壌診断に基づく適正施肥や、たい肥などの有機物の活用、施肥量低減技術の導入、肥料銘柄の見直しや調達方式の改善等により、コスト低減に努めましょう。

岩手県では、肥料コスト低減に向け、下記のマニュアルを発行し、岩手県ホームページに掲載しています。是非一度、お手持ちのパソコンやスマートフォンから確認してください。

岩手県肥料コスト低減対策マニュアル（令和4年1月）

[https://www.pref.iwate.jp/agri/res/projects/project\\_agri\\_page/002/004/581/hiryoukosutoteigen0406.pdf](https://www.pref.iwate.jp/agri/res/projects/project_agri_page/002/004/581/hiryoukosutoteigen0406.pdf)

## 山火事防止運動実施中！ [ 2月26日 ]

[ ~5月31日 ]

「山火事を起こすも防ぐも私たち」

春先は野山が乾燥し、風の強い日が多くなります。林野火災の多くは人為的な原因で発生していますので、野外での火の取扱いには十分注意しましょう。

次号は4月23日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。